

Systemex

Be Fine!

第40期営業のご報告

2006年4月1日～2007年3月31日

証券コード 6869



シスメックス株式会社

検体検査事業からライフサイエンス事業へと活躍の場を広げつつあるシスメックス。健康への関心がますます高まる社会の中で、当社は健やかな未来に独自の技術と製品で貢献してまいります。「Be Fine!(健やかに!)」は、シスメックスグループと株主の皆様の架け橋として四半期ごとに発行しています。

業績の推移 1

ごあいさつ 1

事業のご報告

所在地別セグメント 3

トピックス・特集

トピックス

第40期事業活動の動向 5

フォーカス オン シスメックス

シスメックスを
知っていただくために

シスメックスの
新しい企業理念と行動基準

..... 6

シスメックスのこれからを
知っていただくために

シスメックスグループの
新中期経営計画

..... 7

財務諸表の概要

連結 9

単独 11

事業別売上高・品目別売上高/
製品一覧 12

株式の状況/会社概要/
株主メモ/役員のご紹介 13

IR・広報室からのお知らせ

業績の推移



* 2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。

※過年度の数値については、従来の「株主資本」を「純資産」のグラフに、「1株当たり株主資本」を「1株当たり純資産」のグラフに、「株主資本当期純利益率」を「自己資本当期純利益率」のグラフに記載しております。

過去最高の業績で売上高 シスメックスは新しいステ

血球計数分野 グローバルNo.1を達成

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

医療を取り巻く環境は、日本や欧米の先進諸国では、医療制度改革による医療費の削減が進められ、厳しい状況が続いています。一方、中国・アジア諸国では、経済成長に伴う医療環境整備が行われ、市場の拡大が期待されます。

このような状況のもと、当社グループの当期連結決算は過去最高の業績を達成しました。売上高については、1,000億円を超え、主要事業である血球計数分野において、念願であった市場シェアでのグローバルNo.1を達成することが出来ました。

売上面では、米州での直接販売サービス活動や、欧州でのシスメックスブランドを活用したソリューションビジネス*により、海外における売上が順調な伸びを示したことで、為替の円安効果による追い風もあり、中国でのクリーンキャンペーンによる影響をカバーしました。また、日本においても血液検査システムなどの大型案件の受注や、新製品導入、ソリューションビジネスなどの総合力を発揮し、診療報酬引き下げによる影響を最小限に抑え、売上増大に寄与しました。

利益面では、海外での販売力強化や積極的な研究

*ソリューションビジネス:ソリューション(solution)の語源は、動詞のsolveで「問題を解決する・解答を出す」などを意味します。シスメックスは医療現場の多様な課題を解決するために、医療機関を総合的にサポートしています。

1,000億円を達成。 一ジへ。

開発投資により、販売費及び一般管理費などが増加しましたが、増収による大幅な粗利の増加と為替の円安効果によって補い、営業利益は前期比18.6%増、経常利益は前期比13.3%増の二桁成長となりました。

配当金につきましては、1株につき年間36円(中間期16円、期末20円)とさせていただきます。当社は、継続的な安定配当に留意し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針として、連結での配当性向20%を目処に配当を行ってまいります。

環境変化を先取りし、戦略を展開 新たな取り組みを着実な成果へ

2005年5月に公表した中期経営計画の3つの重点課題の進捗についてご報告します。

まず「検体検査*事業の持続的成長と収益拡大」では、売上高が1,000億円を超えるとともに、血球計数分野グローバルNo.1を達成しました。また、今後の需要増大に備え、グローバルな試薬*生産能力を増強し、供給体制の充実を図りました。次に「高付加価値製品を継続的に生み出す技術力の強化と体制の再構築」については、研究開発企画本部を新設し、研究開発体制の再編と研究開発マネジメントを強化しました。また、新たな技術戦略を策定し、2008年竣工を目指して、研究開発の中核拠点となるシスメックス テクノパークの建設に着手しました。最後に「ライフサイエンス

事業による成長の実現」に関しては、ライフサイエンス事業として初の製品「乳がんリンパ節転移迅速診断システム」を欧州にて市場導入しました。

シスメックスは、いち早くグローバル展開を進め、自社の販売・サービスネットワークを構築し、直接お客様に製品やサービスを提供できる体制へ移行してきました。現在では、海外売上高比率は62.5%となり、世界150カ国以上のお客様に“安心”をお届けし、グローバルに収益を創出できる企業へ変革してきました。

さらに、競合企業に先駆けて、ソリューションビジネスへの転換も進めてきました。また、遺伝子やたんぱく質の研究は、社会を一変させるほどの可能性を秘めているため、当社はこのようなライフサイエンス領域への投資も積極的に行っています。

今後も、市場環境の質的な変化を先取りし、経営・事業戦略に反映していきます。

2,000億円超企業への 変革に向けて、中期経営計画による 高成長を目指す

当社グループは、今春、社会からのより厚い信頼の獲得とさらなる飛躍を目指し、新企業理念「Sysmex Way」および行動基準を制定しました。また、売上高2,000億円超企業への変革に向け、2010年3月期の連結業績において売上高1,400億円、経常利益205億円を目標



代表取締役社長

家次 恒

いえず ひさし

【出身地】大阪【略歴】大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社(現シスメックス株式会社)に入社。1996年、代表取締役社長に就任。【趣味】読書、ゴルフ、スポーツ観戦【信条】「意あらず通ず」

とする中期経営計画を策定しました。

シスメックスはこれからも、豊かな健康社会の実現と、企業としての社会的責任を果たしていくことにより、さらなる企業価値の向上を目指し、グループ一丸となって新たなステージへの挑戦を続けてまいります。

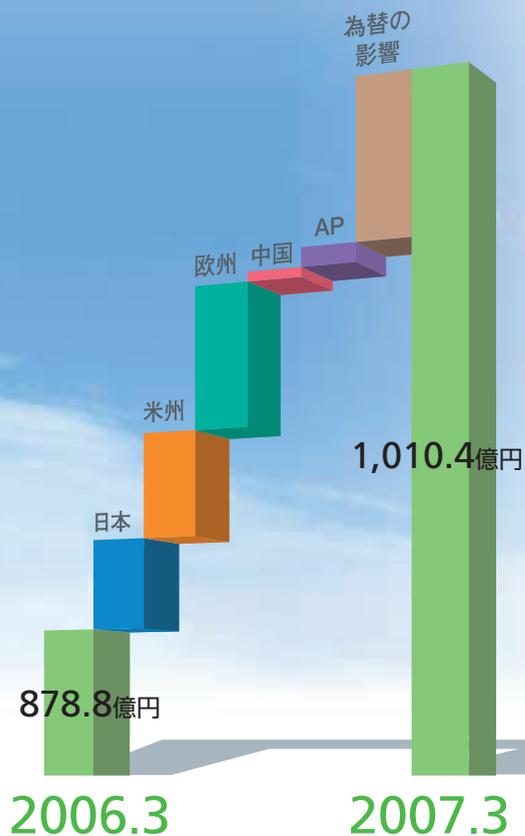
株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

*検体検査(ダイアグノスティックス):血液や尿、細胞などを体の中から取り出して調べる検査のこと。シスメックスは、「検体検査」分野で、血液検査や免疫血清検査、

尿検査などを行うための機器や試薬、さらにはこれらに関するソフトウェアなどの研究開発から製造・販売・サービス&サポートまで手がけている総合メーカーです。

*試薬:検体検査に用いられる医療用医薬品のことで、体外診断用医薬品ともいわれます。人体に直接使用されるものではなく、体外に取り出された血液や体液に使用されます。

●売上高の変化



日本

ソリューション提案を推進し
医療制度改革の影響下、成長を実現！

- 診療報酬引き下げの影響など厳しい市場環境のなか、ソリューション提案を推進し、大規模病院、検査センター*などから大型案件を受注しました。
- 業界初の測定技術を搭載した全自動血液凝固測定装置や高性能・小型の全自動尿中有形成成分分析装置など、多様なお客様のニーズに幅広く対応した新製品を発売し、検体検査事業における品揃えを拡充しました。



全自動尿中有形成成分分析装置UF-1000i



米州 (北米・中南米)

シスメックスブランドが浸透！
二桁成長を実現し、市場シェアを拡大

- 米国では、IHN* (統合医療ネットワーク) への血球計数装置の販売が順調に推移しました。また、中南米では、コスタリカ共和国 社会保障庁より血球分析装置を一括受注しました。
- 米国では、直接販売・サービス体制に移行して以来、確実に市場シェアを伸ばしています。将来の試薬製品の需要増加に備え、建設を進めてきた新試薬生産工場が竣工しました。



新試薬生産工場(シカゴ)



*検査センター:検査業務を専門に実施する企業のこと。近年、通常病院内で行われている検体検査を外部の検査センターなどに委託して実施される場合があります。

*IHN:米国の総合医療事業体。複数の病院により形成され、広域の医療圏で地域住民に必要な医療の提供を目的とした組織。

欧州

販売エリアの拡大と 総合提案型販売により二桁成長を継続

- ヨーロッパ最大級のシャリテ大学病院より血液分析システムを一括受注しました。また、ライフサイエンス事業における初めての市場導入製品として、乳がんリンパ節転移迅速診断システムを医療機関に納入しました。
- 販売・サービス活動を強化するため、スイスにシスメックスデジタナ、南アフリカ共和国にシスメックスアフリカを設立しました。



遺伝子増幅検出装置 RD-100i



中国

医療業界クリーンキャンペーンの逆風 将来の巨大市場の成長に期待

- 医療業界クリーンキャンペーンや保険点数の引き下げの影響により販売活動は低調に推移しました。一方、農村部への医療インフラ整備の予算化が決定するなど、中国市場の拡大が期待されます。
- 医療インフラの整備と検査の質向上が同時に進む中国では、多項目自動血球分析装置XSシリーズがお客様のニーズに適合し、売上が好調に推移しています。



多項目自動血球分析装置 XS-1000i



アジア・パシフィック

インドにおける事業体制を再構築 検体検査領域の リーディングカンパニーへ

- 経済成長が著しく、医療インフラの整備が急速に進むインドにおける事業体制を強化するため、シスメックスインドアを設立しました。また、今後の医療需要増加に対応するため、試薬工場を新設し試薬供給体制の充実を図りました。
- 市場導入した多項目自動血球分析装置XSシリーズは、お客様より高い評価を得ており、順調に販売実績を伸ばしています。



インド試薬生産工場



2006

- 4月 ●南アフリカ共和国に現地法人『SYSMEX SOUTH AFRICA (PTY) LTD.』を設立
- 6月 ■日本赤十字社様より血球分析装置を一括受注
 - ★腎・尿路疾患の診断を支援する全自動尿中有形成分分析装置「UF-1000i」発売
 - 統合医療ネットワークHCAミッドウェスト・ヘルス・システムに当社製品を納入
- 7月 ◆ドイツに海外研究開発拠点『欧州R&Dセンター』を設立
 - 札幌国際ハーフマラソンでシスメックス女子陸上競技部所属の野口みずき選手が大会新記録で優勝
 - コスタリカ共和国 社会保障庁より血球分析装置を一括受注
- 8月 ▲子どもを招いて親の職場見学会開催
 - ★業界初の同時多波長対応検出部を搭載した全自動血液凝固測定装置「CS-2000i」発売
 - ◆化学発光酵素免疫測定技術の改良により、世界最高水準の検出感度を実現
- 9月 ★アジア新興市場向け生化学自動分析装置「CHEMIX-800」発売
 - スイスに販売子会社『シスメックスデジタナ』を設立
 - ◆新たな診断技術の創出を目指し「シスメックス テクノパーク」の整備に着手



IR優良企業賞 表彰式



野口みずき選手

皆様の応援を
よろしくお願いします!



シスメックス テクノパーク(神戸)



SYSMEX INDIA



神戸ルミナリエ
©Valerio Festi/ISF Inc./Kobe Luminarie O.C.



DNAチップ

- 9月 ■ヨーロッパ最大級のシャリテ大学病院より血液分析システムを一括受注
 - 10月 ●インドに現地法人『SYSMEX INDIA PVT. LTD.』を設立し、試薬生産工場の新設に着手
 - 11月 ▲神戸の画家 西村功コレクション「OPEN DAY」開催
 - 日本インベスター・リレーションズ(IR)協議会より「2006年度IR優良企業賞」を受賞
 - 12月 ▲神戸ルミナリエに協賛
 - ◆DNAチップメーカーの米国アフィメトリクス社と共同研究開発および臨床開発・販売に関する契約を締結
- ### 2007
- 1月 ◆先端医療振興財団に寄附研究部門「シスメックス浅野研究室」を開設
 - オーストラリアに駐在員事務所を開設
 - ◆オンコリスバイオファーマ社と共同で、ウイルスを用いたがんの高感度体外診断技術を開発
 - 2月 ★多項目自動血球分析装置「XE-5000」発売(欧州)
 - 「関西財界セミナー賞2007」大賞を受賞
 - 4月 ●株式交換により株式会社シーエヌエーを完全子会社化

シスメックスグループの 新企業理念と行動基準

——新しいステージに向かう
シスメックスグループ

シスメックスは今期、連結売上高1,000億円を達成するとともに、主要事業である血球計数分野で、念願であったグローバルNo.1を達成しました。いまやシスメックスグループの活躍の舞台は、グローバルベースで拡大を続けています。今後もさらなる成長を持続するため、私たちは共通の理念

と戦略を軸に、企業グループが一体となった経営を実践し、企業価値の向上を目指していかなくてはなりません。そのために新たな企業理念と行動基準を制定し、連結売上高2,000億円超企業を目指す新たなステージへと踏み出していきます。

新企業理念

Systemex Way



Mission

ヘルスケアの進化をデザインする。

Value

私たちは、
独創性あふれる新しい価値の創造と、
人々への安心を追求し続けます。

Mind

私たちは、情熱としなやかさをもって、
自らの強みと最高のチームワークを
発揮します。

■新行動基準



- 経営の健全性と透明性を高め、積極的な情報開示とコミュニケーションで、株主の皆様へ安心をお届けします。
- 堅実かつ革新的な経営を推進し、持続的な成長と株主価値の向上に努めます。

シスメックスグループの 新中期経営計画

安定的な高成長を持続し
収益上の向上を目指します

シスメックスは、血球計数分野グローバルNo.1を達成するとともに、連結売上高1,000億円を達成しました。今後はコア事業を強化するとともに、市場の変化に対応しながら新たな収益機会を追求し、安定的な高成長を持続するために、2010年3月期を最終年度とする新たな中期経営計画を策定しました。当計画では、今後3年間で重点的に取り組むべき課題

を掲げており、最終年度の連結業績において売上高1,400億円、経常利益205億円の達成を目指します。

さらに将来の連結売上高2,000億円超企業を目指して、グローバルニッチNo.1、アジアフォーカス、ライフサイエンスフォーカスを基本戦略として事業を展開し、今後も安定した高成長の持続を推進していきます。

基本戦略

グローバルニッチ
No.1

血球計数分野での
圧倒的な市場シェアの獲得

アジア
フォーカス

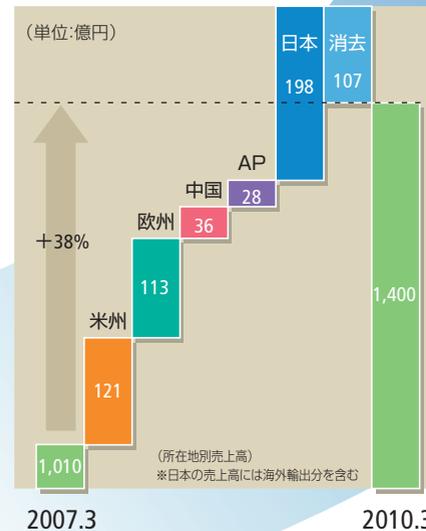
日本を含むアジアでの
免疫・生化学分野における事業展開の促進

ライフサイエンス
フォーカス

がん関連分野を中心とした
ライフサイエンス事業の立ち上げ

グローバルな
基盤強化

米州・欧州を中心とした売上高伸長



中期経営目標 2010年3月期

- 売上高 1,400億円
- 経常利益 205億円
- 経常利益率 14.6%
- ROE 13.6%
- FCF 104億円

2007年3月期実績

- 売上高 1,010億円
- 経常利益 135億円
- 経常利益率 13.4%
- ROE* 13.4%
- FCF* 34億円

成長路線の継続
年率10%以上の
増収

収益性の向上

*ROE(自己資本利益率): [純利益] ÷ [自己資本]
自己資本を使い、いかに効率的に利益を上げているかをみる指標。

*FCF(フリーキャッシュフロー): [営業キャッシュフロー] - [投資キャッシュフロー]
会社が自由に使える資金がどの程度あるのかを示す指標。

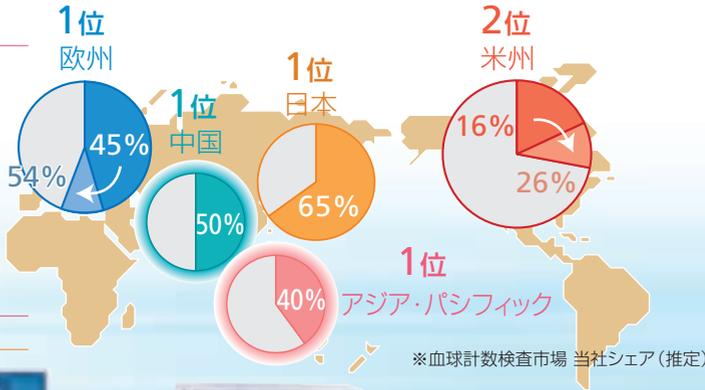
A Unique & Global Healthcare Testing Company

20XX年

売上高2,000億円
超企業を目指して

グローバルニッチNo.1

血球計数分野における、全ての地域でのシェアNo.1獲得と、血液凝固分野、尿分野におけるグローバルNo.1の強化を目指します。



アジアフォーカス

今後の成長が大いに期待できるアジアマーケットにおいて、検体検査領域でNo.1の総合サプライヤーを目指します。



2010年3月期

ライフサイエンスフォーカス

先進国では、医療政策が「治療」から「予防」へと転換するなかで、検査の重要性が高まっています。研究開発型企业として、新しい検査技術を創造し、健康寿命の延長や患者さんのQOL*向上を目指します。



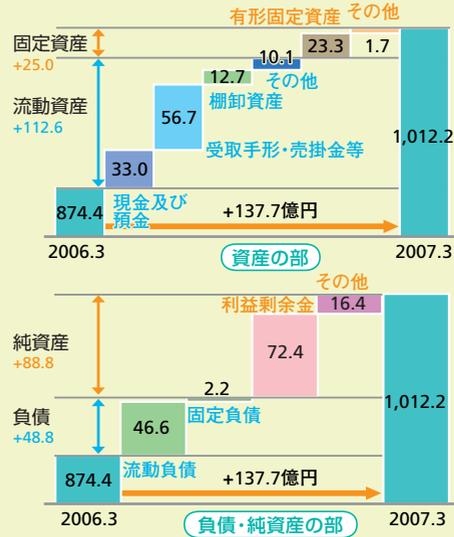
現在

1,000億円

*QOL:Quality of life(クオリティ・オブ・ライフ)は「生活の質」という意味です。これは「人が人としての尊厳を保ち、よりよく生きること」を指しています。

●貸借対照表の増減要因

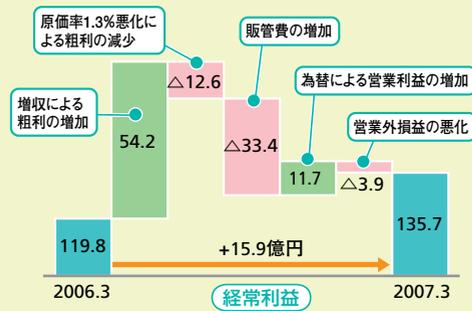
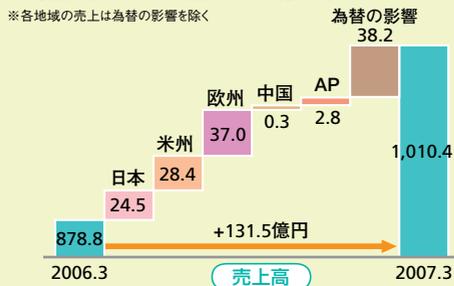
(単位:億円)



●売上高・経常利益の増減要因

(単位:億円)

※各地域の売上は為替の影響を除く



●資産及び純資産

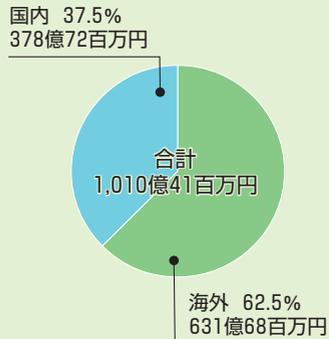
総資産は、前期末に比べて137億78百万円増加し、1,012億25百万円となりました。主に、現金及び預金が33億8百万円、受取手形及び売掛金が57億64百万円、棚卸資産が12億71百万円それぞれ増加したこと等により、流動資産が112億68百万円増加したことによるものです。

純資産は、主に利益剰余金が72億44百万円増加したこと等により、前期末と比べて88億88百万円増加し、723億96百万円となりました。また、自己資本比率は、前期末の71.6%から1.1ポイント低下して70.5%となりました。

●売上高

売上高は1,010億41百万円(前期比15.0%増)となりました。国内売上高は378億72百万円(前期比6.9%増)、海外売上高は631億68百万円(前期比20.4%増)となり、海外の構成比は62.5%(前期比2.8%増)となりました。

—— 地域別売上高(当期連結) ——



貸借対照表

(単位:百万円)

	当期末 2007年3月31日現在	前期末 2006年3月31日現在	増減額
流動資産	66,120	54,851	
固定資産	35,104	32,594	
資産合計	101,225	87,446	13,778
流動負債	25,634	20,967	
固定負債	3,195	2,971	
負債合計	28,829	23,939	4,889
少数株主持分	—	860	—
資本金	—	7,954	
資本剰余金	—	11,184	
利益剰余金	—	41,550	
その他有価証券評価差額金	—	1,234	
為替換算調整勘定	—	872	
自己株式	—	△150	
資本合計	—	62,646	—
負債・少数株主持分・資本合計	—	87,446	—
資本金	8,501	—	
資本剰余金	11,731	—	
利益剰余金	48,794	—	
自己株式	△163	—	
株主資本合計	68,864	—	—
その他有価証券評価差額金	805	—	
為替換算調整勘定	1,674	—	
評価・換算差額等合計	2,480	—	—
少数株主持分	1,051	—	—
純資産合計	72,396	—	—
負債・純資産合計	101,225	—	—

損益計算書

(単位:百万円)

	当期 2006年4月1日から 2007年3月31日まで	前期 2005年4月1日から 2006年3月31日まで	前年同期 増減率(%)
売上高	101,041	87,887	15.0
売上原価	43,497	36,739	
売上総利益	57,543	51,148	
販売費及び一般管理費	44,828	40,425	
営業利益	12,714	10,723	18.6
営業外収益	1,185	1,558	
営業外費用	322	300	
経常利益	13,577	11,981	13.3
特別利益	370	59	
特別損失	180	138	
税金等調整前当期純利益	13,768	11,902	15.7
法人税、住民税及び事業税	5,139	5,010	
法人税等調整額	△424	△561	
少数株主利益	44	31	
当期純利益	9,008	7,422	21.4

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	2006年4月 1日から 2007年3月31日まで	2005年4月 1日から 2006年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,085	8,275
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,630	△7,858
財務活動によるキャッシュ・フロー	△457	△1,190
現金及び現金同等物に係る換算差額	301	275
現金及び現金同等物の増減額	3,298	△498
現金及び現金同等物の期首残高	9,416	10,457
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の減少高	—	△542
現金及び現金同等物の期末残高	12,714	9,416

●営業利益・経常利益・純利益

営業利益は、研究開発費、販売・サービス費用等の販売費及び一般管理費の増加を増収効果により補い、127億14百万円(前期比18.6%増)となり、**経常利益**は135億77百万円(前期比13.3%増)、**当期純利益**は90億8百万円(前期比21.4%増)となりました。

●キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローの収入の増加と投資活動によるキャッシュ・フローの支出および財務活動によるキャッシュ・フローの支出の減少により、現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、32億98百万円増加(前期は10億41百万円の減少)し、127億14百万円となりました。

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、100億85百万円(前期比18億10百万円増)となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益が137億68百万円(前期比18億65百万円増)増加したこと、売上債権の増加が43億92百万円(前期比20億8百万円増)となったこと、仕入債務の増加が6億90百万円(前期は7億53百万円の減少)となったこと等によるものです。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

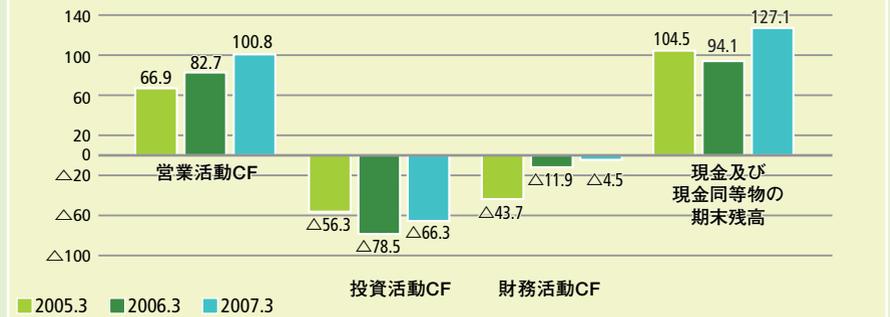
投資活動の結果使用した資金は、66億30百万円(前期比12億28百万円減)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出が46億28百万円(前期比11億67百万円減)減少したこと、投資有価証券の売却による収入が3億4百万円(前期比3億4百万円増)増加したこと等によるものです。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、4億57百万円(前期比7億32百万円減)となりました。主な要因は、配当金の支払額が16億3百万円(前期比4億80百万円増)増加したこと、前期には無かったストック・オプションの行使に伴う株式の発行による収入が10億93百万円あったこと等によるものです。

●キャッシュ・フローの推移

(単位:億円)



株主資本等変動計算書

2006年4月1日から2007年3月31日まで

(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式			
2006年3月31日残高	7,954	11,184	41,550	△150	2,107	860	63,507
新株の発行	546	546					1,093
利益処分による利益配当			△798				△798
剰余金の配当			△804				△804
利益処分による役員賞与			△159				△159
当期純利益			9,008				9,008
自己株式の取得				△12			△12
自己株式の処分		0		0			0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					372	190	563
2007年3月31日残高	8,501	11,731	48,794	△163	2,480	1,051	72,396

貸借対照表

(単位:百万円)

	当期末	前期末	増減額
	2007年3月31日現在	2006年3月31日現在	
流動資産	46,649	40,329	
固定資産	42,831	40,109	
資産合計	89,481	80,438	9,042
流動負債	20,327	17,377	
固定負債	1,272	1,352	
負債合計	21,599	18,730	2,869
資本金	—	7,954	
資本剰余金	—	12,115	
利益剰余金	—	40,690	
その他有価証券評価差額金	—	1,098	
自己株式	—	△150	
資本合計	—	61,708	—
負債・資本合計	—	80,438	—
資本金	8,501	—	
資本剰余金	12,662	—	
利益剰余金	46,132	—	
自己株式	△163	—	
株主資本合計	67,132	—	—
その他有価証券評価差額金	749	—	
評価・換算差額等合計	749	—	—
純資産合計	67,881	—	—
負債・純資産合計	89,481	—	—

損益計算書

(単位:百万円)

	当期	前期	前年同期 増減率 (%)
	2006年4月 1日から 2007年3月31日まで	2005年4月 1日から 2006年3月31日まで	
売上高	63,046	57,768	9.1
売上原価	29,179	26,081	
売上総利益	33,866	31,687	
販売費及び一般管理費	27,519	26,006	
営業利益	6,346	5,681	11.7
営業外収益	3,791	3,543	
営業外費用	275	305	
経常利益	9,862	8,918	10.6
特別利益	204	5	
特別損失	105	339	
税引前当期純利益	9,961	8,584	16.0
法人税、住民税及び事業税	2,994	3,165	
法人税等調整額	△233	△511	
当期純利益	7,200	5,931	21.4
前期繰越利益	—	1,586	
抱き合わせ株式消却損	—	△234	
中間配当額	—	499	
当期末処分利益	—	6,785	—

株主資本等変動計算書

2006年4月1日から2007年3月31日まで

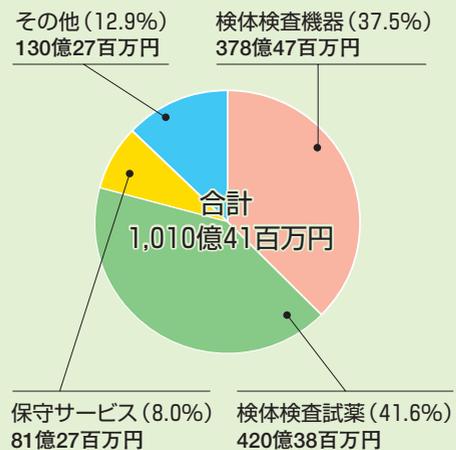
(単位:百万円)

	株主資本				評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		
2006年3月31日残高	7,954	12,115	40,690	△150	1,098	61,708
新株の発行	546	546	—	—	—	1,093
利益処分による利益配当	—	—	△798	—	—	△798
剰余金の配当	—	—	△804	—	—	△804
利益処分による役員賞与	—	—	△154	—	—	△154
利益処分による別途積立金の積立	—	—	—	—	—	—
当期純利益	—	—	7,200	—	—	7,200
自己株式の取得	—	—	—	△12	—	△12
自己株式の処分	—	0	—	0	—	0
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	△349	△349
2007年3月31日残高	8,501	12,662	46,132	△163	749	67,881

■事業別売上高(連結)



■品目別売上高(連結)



<p>検体検査</p> <p>■システム</p> <p>HSTシリーズ</p> <p>XE-Alpha</p>	
<p>■血球計数検査</p> <p>多項目自動血球分析装置 XE-2100</p> <p>多項目自動血球分析装置 XT-2000i</p> <p>多項目自動血球分析装置 XS-1000i</p>	
<p>■血液凝固検査</p> <p>全自動血液凝固測定装置 CA-7000</p> <p>全自動血液凝固測定装置 CA-500</p>	<p>■免疫血清検査</p> <p>免疫凝集測定装置 PAMIA-40i</p>
<p>■尿検査・便検査</p> <p>全自動尿中有形成成分分析装置 UF-1000i</p> <p>便潜血用全自動分析装置 Hemo-LIAS200</p>	
<p>IT</p> <p>■検査情報システム</p> <p>臨床検査情報システム SIS</p> <p>血液細胞画像ファイリングシステム LAFIA</p>	
<p>新規事業</p> <p>■産業用粒子計測</p> <p>フロー式粒子像分析装置 FPIA-3000</p> <p>シースロー電気抵抗式粒度分布測定装置 SD-2000</p>	
<p>■ヘルスケア</p> <p>末梢血管モニタリング装置 ASTRIM SU</p>	
<p>■POC検査</p> <p>多項目自動血球計数装置 pocH-100i</p> <p>自動血液凝固測定装置 CA-50</p>	
<p>■検体検査試薬</p> <p>インフルエンザ迅速診断キット ポクテム インフルエンザ A/B</p>	

●株式の状況 (2007年3月31日現在)

■会社の発行可能株式総数 149,672,000株

■発行済株式総数 50,654,596株

■株価・出来高の推移 (2007年5月31日現在)

※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。



■配当性向(連結) / 1株当たり配当金

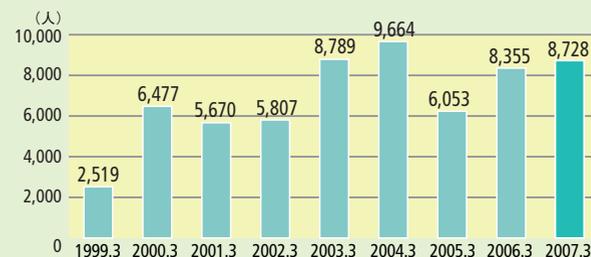


※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。
 ● 配当性向 ● 配当額
 ■ 株式分割後ベースに換算した場合の配当額

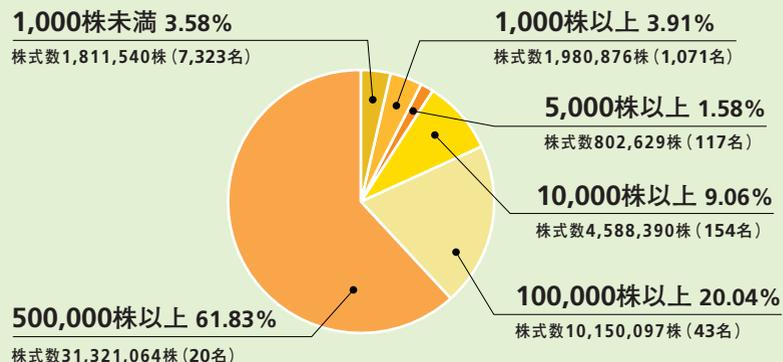
■配当政策

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向20%を目処に配当を行ってまいります。

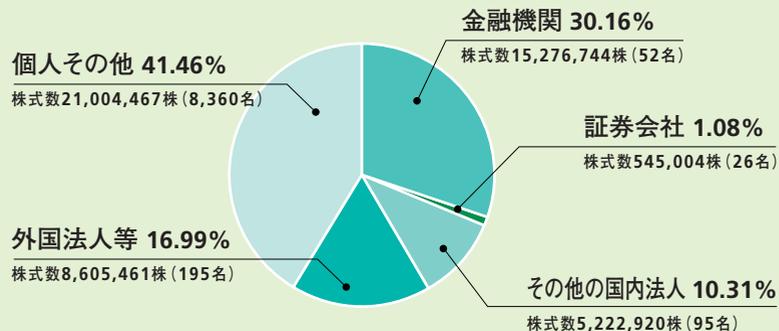
■株主数の推移



■所有数別分布状況



■所有者別分布状況



●会社概要 (2007年3月31日現在)

■商号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION (1998年10月1日東亞医用電子株式会社から商号変更)
■設立年月日	1968年2月20日
■資本金	85億1,381万円
■格付け	A (R&I:格付投資情報センター)
■従業員数	1,240名 ※上記の従業員数には関係会社への出向者195名および嘱託、パートタイマー235名は含んでおりません。

■主な事業の内容
臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器
ならびに関連ソフトウェアなどの
開発・製造・販売・輸出入

■主な事業所

本社 〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
TEL.078-265-0500(代)
FAX.078-265-0524

ソリューションセンター テクノセンター 研究開発センター
加古川工場 小野工場* 西神工場*
東京支社/東京支店 仙台支店 北関東支店 名古屋支店
大阪支店 広島支店 福岡支店
営業所 札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、横浜、静岡、金沢、
京都、神戸、高松、岡山、鹿児島
首都圏サービスセンター

*シスメックス国際試薬株式会社

■主な関係会社

シスメックス国際試薬株式会社
シスメックスメディカ株式会社
トーアメディカル株式会社
シスメックス物流株式会社
シスメックスRA株式会社
株式会社シーエヌエー
SYSMEX AMERICA, INC. (アメリカ)
SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC. (アメリカ)
SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA. (ブラジル)
SYSMEX EUROPE GMBH (ドイツ)
SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH (ドイツ)
WELLTEC GMBH (ドイツ)
SYSMEX UK LIMITED (イギリス)
SYSMEX LOGISTICS UK LTD. (イギリス)
SYSMEX BELGIUM S.A. (ベルギー)
SYSMEX FRANCE S.A.S. (フランス)
SYSMEX BELGIUM IT SLOVAKIA, S.R.O. (スロバキア)
SYSMEX POLSKA S.P.Z O.O. (ポーランド)
SYSMEX SOUTH AFRICA (PTY) LTD. (南アフリカ共和国)
SYSMEX DIGITANA AG (スイス)
済南希森美康医用電子有限公司 (中国)
希森美康香港有限公司 (中国)
希森美康医用電子 (上海) 有限公司 (中国)
希森美康電脳技術 (上海) 有限公司 (中国)
希森美康生物科技 (無錫) 有限公司 (中国)
SYSMEX ASIA PACIFIC PTE LTD. (シンガポール)
SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD (マレーシア)
SYSMEX INDIA PVT. LTD. (インド)
SYSMEX (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
MED-ONE CO., LTD. (タイ)
SYSMEX SAN TUNG CO., LTD. (台湾)
SYSMEX NEW ZEALAND LIMITED (ニュージーランド)
PT. SYSMEX INDONESIA (インドネシア)

●株主メモ (2007年6月22日現在)

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■定時株主総会	6月
■基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。

■公告掲載新聞 日本経済新聞
■上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部
大阪証券取引所市場第1部

■証券コード 6869
■単元株式数 100株

■株式事務

株主名簿管理人 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
(郵便物送付先・電話照会先) 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777 (通話料無料)
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村證券株式会社 全国本支店

■お知らせ

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人の電話0120-684-479 (通話料無料) で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座または銀行口座へお振込みすることができますので、株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。
- 単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは株主名簿管理人にお問い合わせください。

●役員のご紹介 (2007年6月22日現在)

代表取締役社長	いえ つく ひさし 家次 恒
取締役 専務執行役員	ゆきもと けんいち 雪本 賢一
取締役 常務執行役員	わかつ か てるお 和歌 光雄
取締役 常務執行役員	いわさき ためお 岩崎 為雄
取締役 常務執行役員	はやし まさよし 林 正好

取締役 執行役員	なか たに ただし 中谷 正
取締役 執行役員	おおひがし しげのり 大東 重則
取締役 執行役員	なかじま けいし 中島 幸男
取締役 執行役員	たむら けいじ 田村 幸嗣

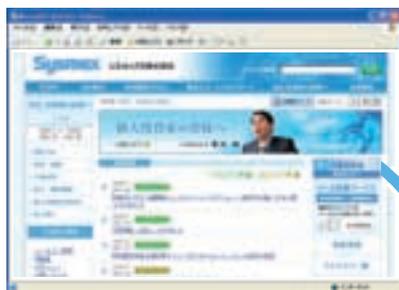
常勤監査役	あへ た みつひろ 明田 光弘
常勤監査役	いわた たよしろう 岩田 豊太郎
監査役	いしだ せいろう 石田 義暁
監査役	ふじおか ひろむ 藤岡 弘

* IR・広報室からのお知らせ *

2007年3月期決算説明会の 模様を当社ホームページにて 動画配信中!

5月11日に開催された決算説明会当日の様
様を動画でご覧いただけます。また「IR資料室」
では、最新の各種決算資料を掲載しております。

www.sysmex.co.jp/ir/index.html



当社投資家様向けホームページが 「IRホームページの優秀企業賞」に 選定!

当社の投資家様向けホームページ(以下、IRサイト)が、大和インベスター・リレーションズ(大和IR)が発表した「インターネットIRサイトの優秀企業賞」に選定されました。当社は昨年に引き続き、3度目の受賞となります。これは、大和IRが主要な上場企業1,849社のIRサイトをレビューし、独自の選考評価に基づき定量的な採点を行った結果、「一定水準に達している」サイトとして認められたものです。



また、ゴメス・コンサルティング株式会社が認証する「IRサイトランキング」においても、当社として初めて「優秀企業」に選定されました。審査は、国内証券取引所に上場している企業でノミネート条件を満たした3,917社を対象に、20の主要項目に基づいた調査が行われ、その中で一定基準を満たした743社の中から、当社を含む70社がさらに「優秀企業」として選ばれたものです。

今後も、皆様のさまざまなご要望にお応えできるようにより充実したホームページづくりを目指します。



メール配信サービスは ご登録されましたか?

当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせする「メール配信サービス」では、随時最新の情報を発信しています。ご登録のお手続きは簡単で、購読は無料です。多くの皆様のご登録をお待ちしております!

メール配信サービス

読者募集中(登録無料)

最新の会社情報を
メールにてお知らせします。

Click!



最新のプレスリリース・IRトピックスを配信します。

[ご登録はこちらへ](#)

www.sysmex.co.jp/ir/m_mag.html

(IR・広報室 H・Y)